

## 課題1【安心・安全な学校】

### A 個人情報保護の周知や B 校舎の老朽化に伴う、安全点検を強化する。

#### (1) 現在の取組

A 令和3年『生徒個人情報調査表』のフォーマットを前年度より見やすく編集し、管理・確認しやすくした。調査項目についても、コロナ禍で増加したりモートに関する項目を追加した。児童生徒の個人情報が掲載されたプリントは、プリンターに取り残しが無いよう職員朝礼で注意喚起した。また、学校教育情報セキュリティ・システム委員会を設置しガイドラインを作成し、児童生徒等の個人情報は外部へ持ち出さない、持ち出す際には「持ち出し簿」へ記入と管理職の許可を得ることを周知した。しかし現時点では、実施の徹底については不十分な点が多い。

B 月末に職員が分担し、管理している箇所の定期点検を行い記録している。記録後、危険箇所が発見されれば、速やかに管理職・事務室へ報告し、Teamsに職朝で全職員への情報共有を行い、修繕・改善に努めている。日頃から校舎内外の点検に努め、児童生徒にとって危険箇所はないか意識するように周知しているが、点検箇所によっては月末に確認がなされていないこともあるため、点検方法や記録方法の見直しが必要である。

#### (2) 対応

A 「生徒個人情報調査表」のフォーマットをさらに見やすく編集を行い、項目内容の見直しを行う。写真や名前の掲載については、担当者・学年主任・学年副主任等の複数での確認を行うよう周知徹底する。さらに個人情報記載プリントの管理については、コピー機やプリンターに取り忘れがないか、定期的な確認をこれまで通り実施する。情報セキュリティについても、持ち出さないこと、持ち出す際には持ち出し簿へ記入し、管理職の許可を得ることを学部単位で周知し、教職員一人一人が危機感を持てるようにする。

B 職員による月末の安全点検を実施について、毎月末、Teamsにて周知し、定期的に複数の目で校舎内外の総点検を行う。危険箇所を発見すれば、速やかに管理職・事務室に報告し、職員朝礼やTeamsで全職員が情報を共有して、危機管理体制を整える。また、校務部として学校が安全安心である教育環境を主導できるように管理部を設置し、学校全体の安全点検や危機管理を担っていく。そして、校舎の老朽化に伴う危険性や防災・減災に取り組み、教職員の一人一人が高い危機管理意識を持って活動するように周知徹底する。

## 課題2【自他の命と人権が尊重された学校】

### A 教職員の専門性の向上や B 道徳(命)教育の充実を図る。

#### (1) 現在の取組

A 校内で行われた研修や校外で受けた研修を職員が閲覧できるように意見交換や質問が行える共有フォルダーの設置を研修部が中心となって取り組んでいるが、周知するまでには至っていない。また、カリキュラムマネジメントの2年目の取り組みとして大学教授を招聘した「わかって動ける授業づくり」の授業改善検討会を全教職員対象に行った。対象授業(小:体育、中:作業学習、高:作業学習)の様子をビデオ記録し、映像を視聴して教師の支援が児童生徒の主体的な活動参加を促しているかを確認した。学部研修では、1月に各学部の取り組みを共有する研修を1回行い、授業改善を進めていった。

B 道徳教育では、「令和3年度道徳教育全体計画」の重点指導項目に基づいて指導を行っている。道徳性に係る成長の様子を個別の指導計画（はぐくみ）にも記入している。性教育では、系統立てたカリキュラムで学期に1回程度、学習計画に則り、授業を行っている。グループ編成は、発達段階に応じて分け、実態に応じた授業を行った。また、今年度は夏休みに保護者・教員向けの性教育講演会を実施した。参加できなかった保護者向けにDVDの貸し出しや資料の配付を行った。

## (2) 対応

A 校内研修等で出た質問や外部研修の内容の共有フォルダーを設置する。ICTを活用し、校内研修を受けながらリアルタイムで講師への質問や意見交換がスムーズにできる研修形態を構築し、教職員の資質向上を図った。また、来年度は2年計画で実施してきた「授業改善検討会」の研修テーマ（わかって動ける授業づくり）で行った研修手法をベースとして、自立活動に焦点を当てた研修を研修部の年間計画に取り入れる予定である。全職員参加の研修を行い、専門性の向上を図っていく。また、ホームページやブログなどに、研修内容を発信する。

B 道徳教育は、「道徳教育全体計画」の重点指導項目に基づいた授業計画を継続して進める。性教育の取り組みについても系統立てたカリキュラムの充実を図り、生活に般化できるよう繰り返し学習指導を行う。中学部では、道徳を意識した授業を週1回取り入れる予定である。全校が揃わないが、できるところから進めている。また、保護者向けに授業や講演会の様子をブログや学年通信等で積極的に発信する。性教育講演会については、次年度以降も継続的に進められるよう、保健部を中心に検討中である。

## 課題3【確かな成長が実感できる学校】

### 新学習指導要領に基づく、学習指導計画の充実を図る。

#### (1) 現在の取組

新学習指導要領に対応した指導略案の様式を検討した。昨年度からキャリア教育発達段階表を使って個々の力を確認し、課題の明文化に取り組んでいる。新様式の指導略案を活用して「わかって動ける授業づくり」を目指し、研修部とプロジェクトチームが一体となって、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、活動できる授業改善に取り組んだ。また今年度、新学習指導要領の「3観点での評価」を取り入れた略案を作成し、来年度からいなみ野版略案として、教職員が使いやすい様式に変更する。また、児童生徒のスムーズな学習移行を目的として、音楽、体育、家庭科、図工・美術、農耕について12年間の学習計画を教務部と学習指導部会を中心に検討中である。今年度の課題としては、新しい指導略案の使用率が低く、教職員全体に周知理解されていない点である。

#### (2) 対応

- ①学部・学年に即した児童生徒の学習課題に照らし合わせて、引き続き12年間の学習計画表を検討・作成する。また、キャリア教育マトリックス表を使って、児童生徒の課題を保護者と共有し家庭との連携を深める。更に、授業の内容や目標が学習指導要領のどの段階の学習活動に当たるか検討を加え、各教科・段階ごとの研修を深めて個に応じた学習指導体制を整える。
- ②教務部を中心に、新学習指導要領と関連付けた年間指導計画と指導略案を作成して、教職員全体の資質向上を図る。新学習指導要領に則した年間指導計画と様式は、令和4年度から使用予定である。新しい指導略案を使った研修を行うことで、教職員全体への周知理解を深めたい。

#### 課題4【自立と社会参加の実現を目指す学校】

情報関連機器（電子黒板・パソコン・タブレット等）の活用能力を充実させる。

##### (1) 現在の取組

本校でも、GIGA スクール構想、イノベーション推進事業、そして BYOD 導入により1人1台端末機器の環境の整備や校内Wi-Fiの設置が充分とあるとは云えないが校内Wi-Fiの設置、情報関連機器の導入が行われた。それに伴い、情報部を中心に操作方法や学習内容についての研修も行われた。児童生徒の興味関心も高く、操作能力も向上している。ICT 機器の管理や情報セキュリティに関する整備が今後必要である。

##### (2) 対応

- ①児童生徒の興味関心は高くなっていることから、情報部を中心に教職員全体の技術・技能の向上を考えたマニュアル作りを進め、指導者育成のカリキュラムを構築する。また、ICTに関する質問やアプリの仕様書等を閲覧できるフォルダーを設置すると共に、教師が共有できるTeamsの活用を推進する。
- ②学校教育情報セキュリティ・システム委員会と連携し、ICT機器の管理方法や仕様書（ルール）を作成する。また、学習指導要領に即した学習指導計画の立案や情報管理を生活上で活かす、ICT 機器の活用方法を研修し、教職員の指導力向上を図る。

#### 課題5【地域に開かれた信頼感ある学校】

学年・学部を超えた活動や地域との交流活動を行う。

##### (1) 現在の取組

新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら実施した。学校間交流では、オンラインやビデオレター等で近隣の小中学校と交流及び共同学習を実施した。一方で相手校のICT環境が整っていないことによって実施に至らないケースもあった。居住地校交流では、コロナ禍における開催実施可否のルールを明確にし、その時の感染状況を鑑み開催時期を交流相手校と協議して、7月から12月にかけて実施することができた。校内交流では、小学部は、小学部6と中学部3年がいなみ野タイムで交流を行っている。中学部は、中学部1年と高等部1年、中学2年と高等部2年、中学部3年と高等部3年で高等部の学習の交流を行っている。高等部は、中学部の交流と小学部に絵本の読み聞かせ会の交流活動を行っている。そして、高等部においては、感染防止に留意しながら地元の高校との交流や地域の幼稚園を訪問して清掃活動も実施した。オープンスクールでは、事前申込で人数制限をした形で教育活動を公開した。また、コロナ禍の中であるが、昨年度より感染防止に留意しながら多くの行事を行い、随時ホームページにブログ形式で発信を行っている。

##### (2) 対応

- ①交流の実施に向けて、相手校や地域と協議し、ICTを活用した交流や間接的な交流など、交流方法を複数提案するようにする。また、交流及び共同学習の活動内容や実施後の様子をホームページやブログ・地域支援だより・学年通信等で随時発信する。
- ②学部を超えての交流を年間計画に盛り込み、計画的な活動ができるようにする。また、交流のねらいを明確に示し、新学習指導要領に沿った学習指導案を作成する。
- ③本校における「兵庫版コミュニティスクール」の構築を目指すため、今年度は関係機関に対して本校

の教育活動の紹介やコミュニティスクールへの参画を積極的に呼びかけ、連携を深めることができた。令和4年度の実施に向け、「いなみ野版コミュニティスクール」の取り組みとして、本校の魅力・特色の発信の場を地域にどのように構築できるか、学校と地域が協働して取り組める活動にはどのようなものが良いか、そして何より本校の教育を地域に応援にして頂くためにどう取り組めばよいのか、などコミュニティスクールの取り組みの具現化にむけた検討を行う。